

大腸切除術（低位前方切除術）を受けられる患者様へ（術前点滴なし）

この用紙を入院当日お持ち下さい

ID: _____

患者様氏名: _____

主治医: _____ 受持看護師: _____

月日(日時)	/ ~ /	/	/	/	/	/	/	/	/
経過(病日)	入院日～手術前日	手術当日（手術前）	手術当日（手術後）	手術後1日目	手術後2日目	手術後3日目	手術後4日目	手術後5日目～7日目	手術後8日目～14日目 退院
達成目標	・手術の必要性を理解し、同意している ・手術の準備が整っている ・下剤による排便がある ・手術まで腹痛なく過ごせる		・血圧が安定している ・傷の痛みが軽度またはない ・出血がない	・ガスが出る ・飲水が開始できる ・吐き気や腹部膨満がない ・傷の痛みが軽度またはない ・起き上がりや座ることができる ・歩行ができる		・吐き気や腹部膨満感がない ・傷の痛みが軽度またはない ・ガスが出る ・積極的に歩行できる	・38.0℃以上の発熱がない ・食事を半分以上食べられる ・傷の痛みが軽度またはない ・ガスが出る ・積極的に歩行できる	・38.0℃以上の発熱がない ・食事を半分以上食べられる ・傷の痛みが軽度またはない ・排便がある ・お腹の管が抜ける ・食事が始まる ・積極的に歩行できる	・38.0℃以上の発熱がない ・退院可能な痛みの範囲内にある ・排便がある ・退院後の生活の注意点が分かる ・日常生活が自立できる 回復状態をみながら術後8日目～14日目を目安に退院日を決定します
治療・薬剤 (点滴・内服) リハビリ	・現在飲んでいるお薬を確認させていただきます ・抗凝固剤が中止になっていることを確認します ・手術前日に抗菌薬を内服します ・午前中と21時に下剤を内服します	・麻酔科から指示があった場合、朝6時に内服します							
処置	・お臍の掃除を行います		・お腹と肛門に管が入っています ・背中から麻酔の管が入る場合があります			・医師確認後尿の管を抜きます ・背中に麻酔の管が入っている場合は抜きます		・6日目に肛門に入っている管を抜きます ・7日目にお腹に入っている管を抜きます	
検査	・血液検査をします ・術前に歯科受診をしていることを確認します		・血液検査をします	・血液検査をします ・レントゲン検査があります	・血液検査をします ・レントゲン検査があります		・血液検査をします ・レントゲン検査があります	・6日目に血液検査とレントゲン検査があります	・状態に変化があるときは追加の検査を行います
活動 安静度	・制限はありません	・手術衣、紙パンツ 弾性ストッキングを着用して手術室に入ります	・手術後はHCU またはICU病棟に入ります ・ベッド上安静です	・医師の指示で一般病棟へ移動します ・歩行できます		・制限はありません ・体力を回復させるために積極的に離床をすすめてください			
食事	・手術2日前は夕まで低残渣食が出ます ・手術前日は朝から欠食です。午後から消灯までに経口補水液を2本飲みます	・前日の消灯後から朝7時までに経口補水液を1本飲みます ・経口補水液以外は食べたり飲んだりできません		・医師の指示で水やお茶を飲むことができます			・医師の指示で、昼から5分粥が始まります	・医師の指示で、昼から全粥になります	・7日目か8日目に栄養指導があります
清潔	・シャワー浴をします	・クリーム類は顔や体に塗らないでください		・体を拭きます					・シャワー浴ができます ・退院後は入浴できます
排泄	・最終排便日時を確認します		・尿の管が入っています			・尿の管を抜きます	・制限はありません		
患者様及びご家族への説明 生活指導 リハビリ指導 栄養指導 服薬指導	・入院生活、手術についての説明があります ・手術室看護師の訪問があります ・薬剤師から薬について説明があります	・入れ歯、貴金属、湿布、ヘアピン等は朝のうちに外しておいて下さい ・必要物品をお預かりします	・PHSをお渡ししますので受け取るまで手術室前でお待ち下さい ・ご家族は手術中アトリウムで待機して下さい ・手術後、ご家族に手術の結果を説明いたします	・血栓症予防のためベッド上でもしっかり足を動かしましょう ・肺炎予防、早期回復のために早期離床を心がけて下さい ・尿の管が抜けた後も、尿を機械に入れていただき測定を行います ・食事が始まって最初のうちは下痢になることが多いですが、退院後は便秘気味になることも多いので水分摂取、適度な運動、消化の良い食事を心がけましょう。		【退院後の生活について】 1. 日常生活に制限はありません。少しずつ体を慣らしていきましょう。 2. 消化の良い食事をしましょう。 3. 便秘にならないよう気をつけましょう。 4. 腸の手術後は腸がくっついたり、ねじれたりして腸に流れていた食物が通らなくなってしまうことがあります（腸閉塞）。すぐ吐いてしまう、便が出なくなる、お腹が張る・痛いなどの症状がある時は病院に連絡し受診して下さい。 また、38℃以上の発熱が続いている、傷がじくじくしているなどの症状がある時も病院に連絡し受診して下さい。 5. 退院後の栄養指導を行います。			

注1 病名は、現時点で考えられるものであり、今後検査などを進めていくに従って変わることがあります。
注2 入院期間については現時点で予想される期間です。

説明を受けた日 _____ 年 _____ 月 _____ 日
説明を受けた方の氏名 _____ (続柄: _____)